



コミコミスク

明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

# KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 167

2022

7.11

## 「つながる本棚 “hito-haco”」 & 「明石まちなかブックスポット MAP」 おひろめイベントが開催されました



7月2日(土)にウィズあかしで「つながる本棚 “hito-haco”」と新たなブックスポットが掲載されリニューアルされた「明石まちなかブックスポット MAP」のおひろめイベントが開催されました。2年前には50か所であったブックスポットが69か所になり、

それぞれのブックスポットにあるストーリーや、それぞれのブックスポットの個性が紹介されたブックスポット MAP になっています。また、新たなブックスポットとして松が丘小学校が掲載されています。先日学校に寄せていただいたときも小さいお子さんを連れたいお母さんがブックスポットで絵本を開いているのを見かけました。休み時間には子どもたちも使い始めているようですが、地域の方がちょっと立ち寄って一休みしていただけるような場としての一步を踏み出したのかなと思います。そして子どもたちと地域の方がそこでちょっとした会話が生まれればいいなと思っています。



オープニングセレモニーには明石タコ大使さかなクンもサプライズ参加され、生さかなクンを見ることができ、年甲斐もなく心がギョギョとしてしまいました。



オープニングセレモニーの後、フリースペースで“「本」でつながるってどういうこと？”をテーマにブックトークが開かれました。ゲストは磯井純充さん(まちライブラリー提唱者・大阪公立大学客員研究員)と土肥潤也さん(みんなの図書館さんかく館長・トリナス代表理事)のお二人で、私はこのお二人の話というよりも、こうしたジャンルのお話を聞くのは初めてでしたが、ファシリテーターさんがどんどんお二人から話を引き出してくださり、とっても面白く、刺激を貰える時間を過ごさせていただきました。話を聞きながら、このお二人の専門が都市計画だと知り、「人」の暮らしを原点にして発想されているのが共通しているのかなと感じました。そして何よりも同い年の磯井さんのパワフルにそしてアクティブに活動され、楽しまれている姿には個人的に今後の生き方を考えさせられる刺激をいただきました。また、今回ゲストトークの中で「しえんしえん遊文庫」という大久保にあるブックスポットと生中継で結び、お話を聞くことができたのにはびっくりしました。生中継という手法だけでなく、レポーターさんがテンポよくインタビューされるので画面に引き込まれてしまいました。この「しえんしえん遊文庫」もゲストの磯井さんの話を聞いたことをきっかけに庭先に絵本を置くことからスタートしたそうですが、地域の中での居場所や交流の場として地域の中に根付いて

いるのを知り、こうした活動が地域の中でどんどん進んでいることにビックリしたというか、いままで知らなさ過ぎた自分に気づかされました。実は学校の外ではすでにずっと前からコミュニティ・スクールが始まっていたんですね。



今回のイベントだけでなく、何回か参加させていただいた明石コミュニティ創造協会さんのイベントの持ち方や、こうした生中継を含めデジタルの使い方などはとても刺激をいただいています。「Zoom de 対話」「みんなでラボろう」等は明石コミュニティ創造協会さんの Zoom 教室に参加してみたい企画ですが、今回はこの生中継等フォーラムの運営面を TTP させていただこうかなと考えています。



是非 YouTube で見ていただけたらと思います。(ゲストトーク→42 分あたりから)

<https://www.youtube.com/watch?v=2PxPpwjE94M&t=1626s>

## 「松っ子」の各教室が始まっています



コロナもようやく落ち着きを見せ始めていますが、そんな中、コロナ感染に気をつけながら「松っ子将棋教室」(毎週月曜日、3年生以上希望者)、「松っ子放課後子ども教室」(毎週木曜日、1年生希望者)、「松っ子レベルアップ」(毎週金曜日、3年生以上希望者)が今年も始まりました。地域・保護者の皆さんや学生さんにサポートしていただき、これらの教室は続けられています。その中で「松っ子放課後子ども教室」は10年以上続き、毎年1年生のほとんどが参加しており、松が丘の子どもたちにとってここでの地域の方との出会いがこの後の学校生活の中でいろいろな形で深まっています。そんな教室が始まる中で今年は嬉しいことがありました。これらの活動を支えているボランティアさんに始めて高校生が名乗りを上げてくれました。それも松が丘小の卒業生です。コミュニティ・スクールをスタートさせた時、「いつかは卒業生が戻ってきてくれる学校になったらいいね」と話をしていましたが、思ったよりも早く戻ってきてくれました。高校生が卒業して5年足らずですが、知っている先生は異動してほとんど残っていないことから、地域に根ざした活動としてこれらの教室を根付かせていく必要性を感じます。そういった意味でも地域の方や保護者の方、そして学生さんに支えられた子どもたちがボランティアとして、学校へ、地域へ戻ってきてくれるサイクルを根付かせていく仕組がコミュニティ・スクールなんだと改めて感じています。



「できる時に、できる事でいいので卒業生さん、お待ちしております。」

また市内にはこうした取組を地域で子どもを育てる取組としてまちづくり協議会さんが中心になって取組まれているところがたくさんあり、そうした活動と学校がつながるようになればいいなと思っています。

## 「地域学校協働のデザインとマネジメント」に学ぶ その1

「地域学校協働デザインとマネジメント」での学びのご紹介シリーズのスタートです。初回として「地域学校協働」の意味を考えてみます。私自身これまで、「地域学校協働」という言葉を聞くと地域から学校へ向くベクトルをイメージしていましたが、まず、そこが私の勉強不足でした。この本では「地域学校協働」について次のように書かれています。

“地域学校協働とは、教育事業の名でも、組織や施設の名でも、教育・学習活動や教育用語でも、政策スローガンでもない。今、学校や地域の中でおきている教育の課題を克服する方法をさす用語”と書かれています。未来を創り、持続可能な社会を担う人を地域社会で育てていくということが自分の中で確認できたように思います。みなさんはいかがですか。

(文責：北本)